

PETEMO times

2020 March vol.22

春うららかに、
ペットびより。



全国のイオンペット系列の
お店で使える
クーポン
付き!

特集

人も動物も、ともにしあわせに 暮らせる社会をめざして。

飼い主のいない、罪のない多くのワンちゃん・ネコちゃんの殺処分。そんな悲しい現実を改善するために活動している団体のひとつに、公益財団法人「どうぶつ基金」があります。同財団の理事長 佐上邦久さんに、殺処分の現状と課題、対策について伺いました。

悲しい最期を迎える 猫たちを救うために

みなさんの家族として、毎日しあわせな生活を送っているワンちゃん・ネコちゃん。しかし、その一方で飼育放棄された犬や野良で産まれ育った猫たちは、飼い主が見つからない場合、保健所での殺処分という悲しい現実が待っています。「罪のない動物たちを救いたい。殺処分数をゼロにしたい」。そんな想いを持って全国の獣医師やボランティアの方々とともに活動しているのが、公益財団法人「どうぶつ基金」です。



同財団の前身である財団法人「横浜動物福祉協会」は、1988年、当時83歳だった富岡操さんによって設立されました。富岡さんは飼い主に捨てられたワンちゃんやネコちゃんのためのシェルター施設を設け、96歳で亡くなるまで住み込みで働き続け、動物たちの救命・保護に献身。その後、団体は名称を「どうぶつ基金」に改められ、富岡さんの遺志を継いで行政による犬や猫の殺処分ゼロ実現に取り組んでいます。

またたく間に増える 猫の高い繁殖力

横浜動物福祉協会が設立された当時、犬猫の殺処分数は約100万頭にも及んでいました。その内訳は、おおよそ犬が70万頭、猫が30万頭だったといわれています。犬は狂犬病予防法の対象であったため、野良犬の数はみるみる減少し、今ではほとんど見か

けることはなくなりました。しかし、野良猫は当時からその対象ではなく、保健所が自ら捕獲を行うことは多くはありませんでした。さらに、猫は繁殖力が高いため、年間20万頭〜30万頭を殺処分してもまたすぐに数が増え、毎年ほぼ同じ数の殺処分が繰り返される状況が続いていました。

「猫は1年に3回も出産し、1回につき5〜6頭、1年で15〜18頭の子どもを産みます。さらに産まれたメス猫は生後4か月後には交尾が可能となり、その2か月後には出産。そうすると、1頭の母猫から生まれる猫の数は子猫・孫猫を含むと年間50頭以上。さらにその半分の25頭をメス猫とすれば、翌年には50倍の1,250頭もの猫が生まれる計算になります。1頭からこれだけの猫が産まれ続ける状況では、殺処分数が減るわけがありません。では、どうすれば良いのか。私たちが考えた末にたどり着いたのが、

TNR活動でした。

保護するだけでは 解決につながらない

どうぶつ基金では、設立当初は飼い主のいない犬や猫をシェルターで保護し、里親を探し取り組みを行っていました。しかし、シェルターで保護でき



どうぶつ基金理事長 佐上邦久氏

る頭数には限りがあり、また活動を続けるうちに里親の見つからない子が残り、その数が増えてしまうという課題を持っていました。

「怪我や病気を持っている子はどうしても里親が見つかりづらく、シェルターで保護し続けるしかない状況でした。しかし、このまま活動を続けていても、新しい子たちを受け入れられなくなり、経済的にも活動が困難になってしまいます。それでは根本的な解決にはなりません。これは創業者の意志に合致しているのか、殺処分のない世の中をつくることにつながっているのか。改めて私たちの目的を達成するために必要な取り組みは何か考えました。そして、新たな犬猫の受け入れを中止し、今いる子たちの里親探しに注力。どうしても引き取り手の見つからない子たちは、私をはじめとするスタッフが里親となりました。そして、シェルターを空にして閉鎖。取り組みの主体をシェルターによる保護活動からTNR活動にシフトしたのです。」

多くの人の協力を得て 実現したTNR活動

TNRとは「Trap (トラップ：罠)」「Neuter (ニューター：不妊手術)」「Return (リターン：元の場所に戻す)」の略で、野良猫を捕獲、不妊手術を施し、元の場所へ戻す活動のこと。不妊手術を施した猫には、間違えて再度TNRを行わないよう、目印として片耳の先をV字にカット。その耳の形が桜の花びらに似ていることから「さくらねこ」と呼ばれています。飼主のいない猫に不妊手術を施すことで新たに産まれる猫の数を減らし、殺処分というもつとも悲しい最期を迎える子を減らすことができるのです。どうぶつ基金は2005年からTNR活動を開始。この活動は多くの人の協力に支えられていると佐上さんは話します。

「まず、野良猫を見つけた人はどうぶつ基金のボランティアに登録し、不妊手術を行う猫の数だけチケットを申請します。チケットを受け取ったら野良猫を捕獲機で捕獲し、近くの協力動物病院へ連れて行き不妊手術をしてもらいます。この際に手術費用は発生せず、ボランティアさんは病院にチケットを渡すだけ。手術費用は後日病院からどうぶつ基金に請求されます。その後、ボランティアさんは手術を



TNR活動を支えるたくさんのボランティアさん



捕獲して

不妊手術をしてサクラ耳カット

元の場所に戻す



猫がケガしないよう注意しながら捕獲機で捕獲



獣医師による不妊手術を実施



術後の経過観察を行い、元の場所に戻す

終えた猫を元いた場所に戻し、TNRは完了となります。捕獲とリターンを担ってくれるボランティアさん、そして一般的な手術費用の約1/5~1/10の価格(オス猫の去勢手術2,000円、メス猫の不妊手術4,000円)で手術を行ってくれる協力動物病院の方々。私たちのTNR活動は、こうしたたくさんの人の想いと具体的な行動によって支えられています。

これまで個人のボランティアさんからの申請が多かったどうぶつ基金のTNRですが、ここ2~3年で、行政との協働が急増してきていると言います。

「行政に対する苦情の中でも特に多いのが野良猫に対するものです。猫による盛りの声や糞尿被害など、行政もどうにかしたい一方で予算がなくて動けないという事情がありました。しかし、その行政を地域住民の方々が動かしてくれました。どうぶつ基金と協働することで経済的な負担を抑えられることを説明し、時には署名活動まで行ってくれたのです。行政が動くことで一般の方々からの野良猫の報告がまとまってどうぶつ基金に届くため、より効率的にTNRができるようになりました。」

TNR活動を開始し 殺処分数は1/10に

2019年度、どうぶつ基金が行ったTNRの数は3万316頭。これまでの累計数は11万頭以上にのぼります。その効果は明確に数字となって現れており、どうぶつ基金によるTNRの累計数が増えれば増えるほど、殺処分数が減少。それまでほぼ横ばいだった猫の殺処分数は2009年度から減少傾向に変わり、毎年1~2万頭ずつ減り続け、環境省が発表した2017年度のデータでは殺処分された猫の数は約3万5,000頭となりました。

「このペースで行けば近い将来、猫の殺処分数ゼロを達成できると確信しています。しかし、ここで気を抜くことなく最後まで一気にやり抜くことが大切です。私たちにはTNRを行う際に大切にしているポイントが3つあります。それが『スグやる』『全部やる』『続ける』ということ。先程お話ししたように猫の繁殖力はとても高く、TNRをゆっくりに行っている間に合いません。また、仮に9割の猫にTNRを行ったとしても、残りの1割からまた増えてしまいます。そして、ある地域で完全にTNR

をやりにきったと思っても、捕獲漏れや他の地域から新入りが入ってくれば再び繁殖してしまいます。だからこそ、この3つのポイントを守って取り組むことが大切なのです。

どうぶつ基金では、こうしたTNR活動と「さくらねこ」の存在をたくさんの方々知ってもらうため、「さくらねこ」の語呂に合わせて3月22日を「さくらねこの日」として登録。子どもを産まず一代限りとなった命を

健康に生きる「さくらねこ」について、みんなで話し合う機会にしてほしいと言います。

「私たちのゴールはどうぶつ基金を解散すること。殺処分がなくなり、私たちの活動が必要ない世の中にする事です。みなさんが街でさくらねこを見かけたら、その後ろにはたくさんのボランティアさんたちがいるということを思い浮かべてください。そして、さくらねこたちをやさしく見守ってほしいと思います。」

どうぶつ基金ではTNR活動を支援するサポーターを募集しています。同財団の取り組みに共感された方は、ぜひ一度HPをチェックしてみてくださいかがでしょうか。



3月22日「さくらねこの日」のポスター



「最後まで丁寧に取り組むことが殺処分ゼロにつながります」と佐上さん

